

ブラジル オレンジ果汁の輸出量は依然として前年を下回る

[CEPEA 2024年6月19日](#)

セペア、2024年6月18日 - 2023/24年度シーズンこれまで(2023年7月～2024年5月)にブラジルが輸出したオレンジ果汁の量は、依然として前年同期に記録された量を下回っている。COMEXStat(ブラジル政府の公式貿易統計)のデータによると、ブラジルはこの期間に91万490トンのオレンジ果汁を輸出し、これは昨年同期と比較して8.9%少なかった。

一方、今シーズンの輸出額は24億7千万米ドルで、前年同期比で22%増加した。セペアが照会した機関によると、輸出額増加の主な理由は、ブラジルでこの商品が入手し難くなっており、果汁1トン当たりの価格が上昇したことであった。

2023年7月から2024年5月までの欧州連合(EU)へのオレンジ果汁出荷量は48万9,790トンで、前年同期比8.2%減少した。一方、輸出額は27%増の13億5千万ドルとなった。米国への輸出は、前年同期比で11%減となる29万3,640トンであった。同期間に確認された輸出額は7億3,700万米ドルで、前年同期比9%増であった。

国内市場 - 加工用に仕向けられるオレンジの価格は、2024/25年度シーズンの契約が締結され始めた3月から上昇してきている。6月上旬にサンパウロのスポット市場で取引された果実の価格は、収穫費用及び配送料込みで85.00リアル/箱(40.8kg/箱)に達し、実質ベース(IGP-DI(ブラジルの総合物価指標)によってインフレ修正済み)で1994年に開始されたセペアの累積データの中で新記録を達成した。

価格の上昇は、需要の増加と供給の制約の両方に関連している。需要に関しては、オレンジ果汁の在庫量が非常に少ないため、果汁製造業者は原材料を購入する必要がある。供給に関しては、サンパウロ州とトリアングロ・ミネイロ(ミナスジェライス州の三角地帯)で、オレンジ果実の出荷量が再び少なくなる可能性がある。

セペア(サンパウロ大学応用経済高等研究センター)